



気持ちのよい“あいさつ”に思うこと

校長 関根 祐一

菜種梅雨と言う程の長雨があったわけでは
ないにせよ、天気が安定せず寒暖差も大きかった4月でしたが、ゴールデンウィークを間近にした晴天日には、八国山の青葉を通り抜けてくる瑞々しい風と、空を滑るように飛ぶ燕の姿に、初夏に向かう躍動感と清々しさを感じるようになりました。



年度当初の授業参観・保護者会では、大変多くのご家庭にご出席いただき、誠にありがとうございます。今月の8日（木）からは個人面談を実施させていただきます。保護者会の折にもお話をさせていただきましたが、子どもたちのよりよい育ちを支えていくには、ご家庭と学校でお子さんの状況を共通理解していくことが不可欠です。担任からは学校での様子をお伝えしますので、是非ご家庭での様子などをお話してください。ご多用の折とは存じますが、ご理解とご協力をお願いいたします。

さて、私の一日はほぼ毎日、学校の門の前で「おはようございます。」と登校してくる子どもたちとあいさつすることから始まります（正門と西門を日替わりで立つようにしています）。この朝の時間は、私にとってとても大事な時間です。“あいさつ”は、言葉の由来からすると『お互いの心を開いて、相手の心に近づいていく』という意味になるそうです。

あいさつの声をかけると、たくさんの子から、元気なあいさつや優しく穏やかなあいさつが返ってきます。爽やかにあいさつを交わすことができる、子どもたちから元気をもらえた感覚、同時に自分があいさつの声を出すことで自分の中からも元気が湧いてくる感覚があって、とてもうれしく感じるので。

気持ちのよいあいさつを交わすうれしさを感じるときに、思い出す言葉があります。

「関根さん、子どもたちがしっかり学び、活動している学校って、どんなところに表れてくると思う？」

「私は、あいさつに表れてくると思うんだよ。」もう三十年も前になるのですが、先輩の先生から投げかけられた言葉です。勿論あいさつができれば必ずしも学びが高まるということではないでしょうし、一人一人その時々で気分にもあるでしょう。ですが、豊かな関わり合いがあり一人一人に自分を表現できる場、活躍の場がある学校では、あいさつに活気が表れてくるのは確かに自然なことであろうと思います。それは昔も今も変わりません。

学校生活の充実が、学びに、笑顔に、そしてあいさつに表れる所沢小学校（所小）でありたいと思っています。

今月もよろしくお願いいたします。

所沢市では、通年で業務内容や気候状況等に応じた軽装勤務とさせていただいております。このことを踏まえ、本校でもノーネクタイ等の軽装勤務を取り入れてまいります。ご承知おきくださいますようお願いいたします。